

あけましておめでとうございます

～新しい年を迎えました。幸せな暮らしは平和な社会があつてこそ。

子どもたちの未来のために平和な社会を共に築いていきましょう～

12月23日(木)は年の暮れの「餅つき」を行いました。昨年度は、コロナの感染対策として子どもたちには餅っこでついたお餅を食べ、杵でついた餅は鏡餅にしましたが、今年度は久しぶりにお父さん、お母さんたちにも協力してもらい園庭で餅つきをし、子どもたちはつきたてのお餅をお腹いっぱい食べました。“おいし～い！”大喜びでした。また、鏡餅も作り、ののかぜ保育園の子どもたちをはじめ、みんなに幸せが訪れるようにと玄関や各クラスに飾りました。

子どもたちが健やかに大きくなりますように！大人たちも健康で過ごせますように！そして、コロナが少しでも早く終息しますように！と願っています。

今年も、父母と職員で力を合わせながら子どもたちの育ちを支えて行きましょう。本年もどうぞよろしく願いいたします。



昨年度末に臨時国会が開催され、岸田首相は、改憲にむけての議論を加速化すると発言されました。自党内ではかねてより憲法九条を改憲し、国防軍の明記をすべきであるという声が出されています。戦争の放棄・戦力の不保持を謳った憲法九条が改定されれば、日本はまた再び戦争への道を歩むことになりかねません。今回岸田首相は所信表明演説で、歴代首相で初めて「敵基地攻撃能力」の保有の検討を明言し、軍事費は6兆円超を計上されました。

現憲法には、国民主権、平和主義、基本的人権の三大原則が貫かれています。作家坂口安吾は、国際紛争を解決する手段としての戦争と陸海空その他の戦力の放棄した九条を高く評価し、「私は敗戦後の日本に、二つの優秀なことがあったと思う。一つは農地の解放で、一つは戦争放棄という新憲法の一項目だ。」「ちっぽけな自衛権など、全然無用の長物だ。与えられた戦争放棄を意識的に活用するのが、他のいかなる方法よりも利口だ」(文芸春秋「安吾巷談」)

東西冷戦に突入し、核戦争の恐怖が覆っていた時代にもかかわらず、軍備増強より九条の精神を生かす方が現実的と喝破しました。

日本を取り巻く安全保障環境は厳しさを増していますが、九条改憲や防衛力増強が打開策なのか。本質を見抜く坂口安吾の精神は今もなお新鮮味を持っていると思います。

昨年の1月号に「はやぶさ2」活躍を書かせてもらいました。その中で、はやぶさ2のプロジェクト



マネージャー津田雄一さんが語った、「大人はすごいことをやっている。とんでもないことに挑戦し、面白い未来を作っている。未来には希望はしっかりあり、大人になることは楽しいことだ。そう子どもたちに感じて欲しい」ということをこの園だよりで書きました。

過去に生きて、歴史から学び未来を案じた坂口安吾、そして今を生き、未来を語る津田雄一さん。

未来を生きる子どもたちのために、平和な社会を守り、希望を持って挑戦して行ける基盤を我々は守って行かないといけないと思います。